

# 鹿児島県

# 防災航空隊



AW139

全方位カメラ

人命救助用  
ホイスト装置

ヘリコプター直接衛星通信システム

ヘリサットアンテナ

消火用散水タンク

## 消防・防災ヘリコプター「さつま」性能諸元

型式	レオナルド式 AW139 型	エンジン	双発タービンエンジン
定員	14名 (操縦席含む)	エンジン最大出力	1,872SHP (馬力) × 2
最大全装備重量	7,000kg	全長	16.62m
空重	4,579kg	全幅	4.22m
有効荷重量	2,421kg	全高	4.98m
航続距離	1,250km	ローター径	13.8m
巡航速度	306km/h	ホイスト装置	吊上能力 (272kg)、ケーブル長 (90m)
最大巡航速度	310km/h	消火資機材	散水タンク (1800ℓ)、散水/バケツ (1200ℓ)
限界高度	6,096m	全方位カメラ	可視・赤外線カメラ、レーザー測距装置

本県は南北600kmに及び県域に多くの離島を有しており、防災航空隊は県内全域を対象として、救助・救急・火災事業等に対応しています。平成10年4月から消防・防災ヘリコプター「さつま」(ベル式412EP型)の運航を開始し、平成31年1月には無事故運航6,000時間を達成。同年(令和元年)5月には機体を更新し、新機体(レオナルド式AW139型)の運航を開始しました。「県民の安全を空から守る。」それが、我々の任務です。

## 災害応急対策活動

- 被害状況等の調査・情報収集
- 物資及び人員等の搬送
- 災害情報及び警報等の広報活動 など



## 広域航空消防防災応援活動

- 相互応援協定等による相互応援
- 緊急消防援助隊
- 大規模災害等における広域航空消防応援 など



## 災害予防対策活動

- 火山活動・災害危険箇所等の調査・情報収集
- ヘリコプター監視衛星通信(ヘリサット)システムによる映像送信 など



# 鹿児島県防災航空隊

～ 県民の安全を空から守る ～

## 救助活動

- 山岳遭難及び水難事故等における捜索・救助
- 高層建築物火災における救助
- 地上消防隊員の現場投入
- 災害時の孤立者救出 など



## 救急活動

- 遠隔地、船着等からの急患搬送
- 救助活動後の医療機関への搬送
- 高度医療機関への転院搬送
- 医師、医療資器材、薬品等の搬送 など



## 火災防ぎょ活動

- 林野火災等における空中消火
- 消防隊員及び消防資器材等の搬送
- 被害状況等の調査・情報収集 など





## 運航体制

防災航空センターには、航空隊員と民間委託している運航会社の職員が土日、祝日、年末年始を問わず、365日勤務しています。運航時間は午前8時30分から午後5時15分までの間ですが、緊急の場合には、日の出から日没の間で対応しています。



知事
危機管理防災局
消防保安課

防災航空センター	
所長	
防災航空隊	
隊長 1名	運航委託会社
副隊長 3名	操縦士 1名
隊員 3名	整備士 2名
補助員 1名	運航管理 1名

# 鹿児島県防災航空隊の沿革

- |              |   |
|--------------|---|
| 平成 10 年 4 月  | 防災航空センターの設置及び防災航空隊発足（派遣消防職員 6 名編成）                                    |
| 6 月          | 運航開始（ベル式 412EP 型）   |
| 12 月         | 鹿児島県防災航空センター事務所着工<br>ヘリコプターテレビ電話システム導入                                |
| 平成 11 年 3 月  | 鹿児島県防災航空センター事務所完成   |
| 平成 13 年 4 月  | 無事故運航 1,000 時間到達  |
| 平成 14 年 10 月 | 機体に TCAD（空中衝突警告装置）及びストロボライトを装備<br>緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（鹿児島会場） 航空部門運航統制担当 |
| 11 月         | 無事故運航 2,000 時間到達  |
| 平成 16 年 8 月  | 鹿児島市消防ヘリポート（緊急専用暫定ヘリポート）供用開始  |
| 平成 17 年 7 月  | 無事故運航 3,000 時間到達  |
| 平成 20 年 2 月  | 九州管区警察広域緊急援助隊合同訓練（鹿児島会場） 参加<br>本土内救急搬送開始（消防・防災ヘリコプターの積極的活用）           |
| 平成 21 年 1 月  | 緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（鹿児島会場） 航空部門運航統制担当                                   |
| 10 月         | エンジン 4,000 時間オーバーホール期間中の代替機運用（ベル式 412SP 型）                            |
| 平成 22 年 10 月 | トランスファーストレッチャーシステムの導入   |
| 11 月-12 月    | 東日本大震災に伴う緊急消防援助隊出動  |
| 12 月         | 無事故運航 4,000 時間到達  |
| 平成 23 年 3 月  | 防災消防ヘリコプター相互応援協定締結（鹿児島・宮崎・熊本・大分）                                      |
| 6 月          | 耐空検査及び機体 5 年点検期間中の代替機運用（ベル式 412SP 型）                                  |
| 平成 24 年 11 月 | 消防隊員投入の運用開始   |
| 11 月-12 月    | 緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（沖縄会場）   |
| 平成 25 年 11 月 | 航空隊員 1 名増員（航空隊員 7 名体制の開始）   |
| 平成 26 年 4 月  | 機体 5,000 時間点検期間中の代替機運用（ベル式 412SP 型）                                   |
| 4 月-7 月      | 航空隊員補助員業務委託の導入  |
| 5 月          | 公共用として枕崎ヘリポートの運用を開始   |
| 9 月          | ホイスカメラ及び機員用ヘルメットカメラの導入  |
| 平成 27 年 1 月  | 口永良部島新田大噴火に伴う緊急消防援助隊航空小隊受援  |
| 5 月          | 無事故運航 5,000 時間到達<br>消防デジタル無線機を装備                                      |
| 12 月-2 月     | 熊本地震に伴う緊急消防援助隊出動  |
| 平成 28 年 4 月  | 緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（長崎会場）   |
| 11 月         | 耐空検査及び機体 5 年点検  |
| 平成 29 年 6 月  | 点検期間中の代替機運用（ベル式 412SP 型）  |
| 6 月-8 月      | 緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（佐賀会場）   |
| 11 月         | 更新機体決定（レオナルド式 AW139 型）  |
| 12 月         | 緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（鹿児島会場）  |
| 平成 30 年 11 月 | 新機体（レオナルド式 AW139 型）納入   |
| 12 月         | 無事故運航 6,000 時間到達（ベル式 412EP 型）   |
| 平成 31 年 1 月  | 新機体運航開始（レオナルド式 AW139 型）   |
| 令和 元 年 5 月   |   |

県内各地  
飛行所要時間  
(目安)

63km 圏内  
(15分)

125km 圏内  
(30分)

188km 圏内  
(45分)

250km 圏内  
(60分)

313km 圏内  
(75分)

375km 圏内  
(90分)

438km 圏内  
(105分)

500km 圏内  
(120分)



## 鹿児島県防災航空隊

鹿児島県防災航空センター

〒898-0080 鹿児島県枕崎市おけぼの町264番地

TEL: 0993-73-2881 FAX: 0993-73-2882

E-mail: bouku@pref.kagoshima.lg.jp